

エコ貯金プロジェクト 2016 年度 SEED PLAN

2030 年長期目標（インパクト）

持続可能でフェアな社会づくりに貢献する金融システムを実現します。具体的には、日本のフェア・ファイナンス・ガイドの評価対象金融機関のうち半数以上が 90%以上のスコアを獲得し、国内金融機関から環境・社会問題を引き起こしている企業・事業へのお金の流れが半減した状態を実現します。また、日本の金融経済教育の内容にフェア・ファイナンス・ガイドの考え方が導入され、フェア・ファイナンス・ガイドから金融機関へのメッセージが毎月 100 通を超える状態を目指します。

2016 年短期目標（アウトカム）

①フェア・ファイナンス・ガイド日本版の運営団体（A SEED JAPAN、アジア太平洋資料センター、「環境・持続社会」研究センター）で協働しながら、フェア・ファイナンス・ガイドのウェブサイト

（<http://fairfinance.jp/>）の認知を高めます。

具体的には以下を指標とする。

- ウェブアクセス数（年間 40,000）
- Facebook ページへの「いいね！」数（年間 3,000 増加、累計 7,000）
- 銀行へのメッセージ数（年間 500）
- メディア掲載数（年間 10 件）

②フェア・ファイナンス・ガイドにおける各種キャンペーンを実行しながら、金融機関との対話を深め、フェア・ファイナンス・ガイドにおける日本の金融機関のスコアが改善されることを目指します。

具体的には以下を指標とする。

- 対話を実施できた銀行数（3 社以上）
- スコアを改善した銀行（2 社以上）
- 特に気候変動、兵器産業、食に関するスコアの改善（3 項目以上）

※これらのテーマは今年度のフェア・ファイナンス・ガイド日本版におけるケース調査対象等となっています

実行手段（アクティビティ・アウトプット）

- ・3 団体で協力し、金融機関評価、ケース調査、広報（F B、スクール、プレゼン、セミナー）等を進める
- ・A SEED JAPAN にてフェア・ファイナンス・ガイドの考え方を広める教材を複数作成する

投入 (インプット)	助成金、チームボランティア・事務局の労力、他の運営団体の協力
活動 (アクティビティ)	銀行評価、ケース調査、広報（F B、スクール、プレゼン、セミナー）、営業
結果 (アウトプット)	ウェブアクセス数、F Bの「いいね」数、銀行へのメッセージ数
成果 (アウトカム)	メディア掲載件数、反響（定性）、銀行との対話実施数、銀行のスコア向上、点数には反映されないが具体的な投融資方針の変更及び可視化、銀行内部での議論・検討の誘発（定性）
波及効果 (インパクト)	銀行から投融資金額の長期的変化（具体的には、日本のフェア・ファイナンス・ガイドの評価対象金融機関のうち半数以上が 90%以上のスコアを獲得する等）（→C O 2 の長期的な削減、クラスター爆弾等の被害の逡減等）